

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記入)】			
事業所番号	3191400104		
法人名	社会福祉法人 赤碕福祉会		
事業所名	グループホーム はなみ		
所在地	鳥取県東伯郡琴浦町赤碕1078-7		
自己評価作成日	令和3年10月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajikensaku.mhlw.go.jp/31/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3191400104-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス
所在地	鳥取県米子市米原2丁目7番7号
訪問調査日	令和3年11月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ感染対策のため、生活環境が変化したが、マスクの着用、1M間隔のソーシャルディスタンス等にも慣れてきた。「体調を整えるケア」では、玉ねぎヨーグルト、温湯法で排便コントロールを行い、日光を浴びながら体操する時間をつくっている。「プライドを大切にしたいケア」ではメモリアルシートを活用しながら家族の名前や人生のエピソードを会話に取り入れコミュニケーションをしている。外部との交流はできないが、本人希望の場所へドライブや墓参りを行う事で気分転換を図ったり窓越し面会で家族と会える機会を作っている。職員全員が「ユマニチュード」のDVDを視聴し、再確認する事で意識的に「見る・話す・触れる・立つ」技術を使った関わり方が出来るように取り組んだ。

コロナ対策の為、利用者の方にとっても制限の多い生活様式となっておりますが、なるべく従来に近い生活が送れるよう工夫されています。以前のように気軽に外出しにくい中、ドライブに出かけたり、出前で外食気分を味わったり、バンパイクングを行なう等、少しでも利用者が楽しい毎日が過ごせるように工夫されています。

ホーム全体の取組みとして、一人ひとりの利用者について丁寧な対応を心掛けておられます。また、利用者本人が意見・要望が言いやすい様な雰囲気作りも行い、利用者の会「はなみ会」が毎月各ユニットで開催されています。

利用者の高齢化が進んできておられますが、理学療法士の訪問による体操やリハビリもあり、できるだけ現状の運動機能を保つように図られています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

3 評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

外部 部	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営				
(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットに理念を掲げ毎朝、朝礼時に唱和を行い意識付けを行っている。年に1度は職員全員で見直しを行っている。	理想のGHIに近づけるために、各ユニットに理念を掲げ、毎朝唱和を行い意識付けが行なわれています。職員全員で理念を実現させる為、年1回理念についての振り返りの機会も持たれています。	
(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の保育園と芋植えを行ったり子供会と交流会を行っていたが、今年はコロナウイルス対策の為実施出来ていない。	開設以来地域と積極的に交流されてきましたが、現在はコロナ禍の為中断されています。地域の保育園児とは、ホームの畑でサツマイモの芋植え、芋掘り、芋料理の会食という年間を通した交流が行われています。認知症カフェを開く際には、近くの特別支援学校の生徒さんと一緒に運営、交流を続けておられます。	
	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェを実施したり、子供会交流会では認知症紙芝居を読み聞かせしていたが今年はコロナウイルスの為実施出来ていない。		
(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3か月に1度開催している。コロナウイルス対策として、ソーシャルディスタンスが出来るように旧ヘルパーセンターで開催し意見交換を行った。	運営推進会議は、年4回開催されており、内1回は法人の3ホーム合同で開催されています。ホームの現況報告が行なわれています、メンバーとして区長や地区住民の方にご参加頂き、積極的に地域の情報提供や防災についての質問が行なわれ、意見交換が行われています。	
(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、町内の情報提供をうけている。	運営推進会議に地域包括支援センター職員や役場福祉課職員にご参加頂き、情報提供を受けておられます。日頃より何かあれば連絡を取られます。小学校での認知症紙芝居の読み聞かせに協力し職員を派遣しておられました。認知症カフェも開催されていました。	
(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3つのGHで3ヶ月に1回身体拘束委員会を開催し事例を挙げて話し合いを行い意識向上に努めている。部署内でも勉強会を実施している。	法人の3ホーム合同で3ヶ月に1回身体拘束委員会を開催し具体例を挙げ話し合われています。その喧嘩を委員がホームに持ち帰り、勉強会等が開催されます。ホーム内ではスピーチロックに繋がる声掛けに注意しておられ統一した声掛けとなるよう話し合われています。	

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会に参加している。自己点検シート(チェックリスト)を活用したり、アンケート実施している。不適切なケアについても部署会で学ぶ機会を設け、自分たちの行っているケアについて振り返りを行った。	虐待防止委員会は法人全体で2ヶ月に1回開かれており、身体拘束同様ホームで伝達が行なわれ、虐待防止に努めておられます。自己点検シート(チェックリスト)やアンケートを実施し自らが振り返りながら日々のケアが行なわれています。	
	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	面会者や家族にも活用して頂けるようにパンフレットを玄関に置いている。部署会で勉強会を実施した。		
	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	個別に十分な話し合いの時間を設け、利用料金や起こりうるリスク等の不安や疑問を伺い、理解、納得して頂きながら契約を行っている。		
(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が司会を行い皆さんの思いを話し合う場として「はなみ会」を月に1回開催し、意見や要望を伺っている。	ユニット毎で行われる「はなみ会」の際には、利用者から意見が出やすいように、視覚的に訴え、意見・要望が出やすいような工夫が行なわれています。家族には、面会時・プラン変更時聞くようにされ、遠方等出来難い方には、担当は普段様子を付け加えたお便りを郵送し、その後電話等で確認されています。	希望される家族へは電子メール等の活用の検討される事も良いと思います。
(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニット会を行い業務改善等話し合いを行っている。引き継ぎノートに意見・提案を書き、他の職員の意見を聴いている。年2回の個別面談で意見要望を聴いている。百寿苑に意見箱(職員の声)が設置してあり匿名で意見を出す事ができる。	毎月ユニット会議を開催し、モニタリング結果を基にしたケア方法や業務改善等について話し合いが行なわれています。日常的には引き継ぎノートを利用し意見・提案が行なわれています。管理者による職員面談も行われており、意見要望を言う機会も設けられています。苑長、課長もよく来られ、意見の言いやすい職場の雰囲気が作られています。	
	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則の見直しを定期的に行っている。Do-CAPシートを使用して、職員個々の評価に基づき昇給されている。	就業規則の見直しが定期的に行われており、理想の職員像もあり、職員が将来像を描きやすくなっています。人事考課による評価が導入されています。年初の面談で職員個々の目標設定を行い、期末の面談で振り返りが行われています。	
	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修や外部研修はコロナウイルスの為、zoomで実施している。事業所内での勉強会は行っている。	法人全体でも必須研修の計画が組まれ、面接の際に研修の希望や目指す資格も確認され、研修等受ける機会の確保が行なわれる等、職員育成の取組みが法人全体で取組まれています。コロナ禍に於いてもオンライン研修等取り入れる等工夫しておられます。	
	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルスの為交流は出来ていない。		

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で本人に会い生活状態を把握するように努めている。また、本人の思いに向き合いながら、日々の生活の中で楽しみを持ち不安感が払拭できる関わりを心掛けている。		
	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までのサービス利用状況等これまでの経緯や、困っていること、不安に思っていることについてじっくり聞くようにしている。家族が求めていることを伺いながら、事業所としてどのような対応ができるかを事前に話し合っている。		
	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、家族の思いや本人の状況をよく伺い、実情を確認しニーズを探り、改善に向けた支援を行うように努めている。		
	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の持っている力を引き出せるよう、できる事を模索しながら、生活の中で活かされる場面や役割作りを増やしている。		
	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	2ヶ月に1度手紙に写真を添えて様子を伝えている。コロナウイルスで面会の機会が減ってしまったが、電話や窓越し、ウェブでの面会にて様子を伝えている。		
(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所へドライブを行っている。面会があれば窓越しでの面会を行っている。	コロナの状況を見ながら、窓越しの面会が行われて記したが、アクリルボードを使い、15分間のリアル面会を再開されました。馴染みの場所へのドライブは継続されており、自宅を見に行ったり、お墓参りに行かれます。	馴染みの人や場との関係があった際には回想法に繋げて行けると良いと思います。また、会いたい人に会えない状況であれば、これからの時期は年賀状の作成も良いと思います。
	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の関係性についてアセスメントシートに記載し職員間で情報の共有を行っている。状況に応じ職員が間に入り良好な関係が保てるように努めている。		
	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域で見かけた時には声を掛け近況を伺ったりしている。		

外部 部	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月のカンファレンスで本人の希望や意向の把握に努めている。 毎月のはなみ会でGHでの生活についての意向等話しをする機会を設けている。	日常の係わり中から把握した希望・意向について、毎月のカンファレンスで職員間で共有されています。また、毎月の利用者の会を開催し希望・意向を発言出来るよう工夫されています。発語の難しい方の場合には、表情を見ながら確認しておられます。困難な方の場合生活歴、家族の意見も参考に検討されています。	意向、希望から、本人にとって、健康で長生き出来て良かったと思えるような生きがいや目標に繋げて行かれると良いと思います。
	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族から聞き取った情報をメモリアルシートに記入し職員間で情報の共有を行っている。馴染みの方に会った時にも情報を伺うようにしている。		
	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の状態・生活リズムを把握し、その方の思いを汲み取り無理なく過ごして頂いている。ユニット会で現状を共通認識し、職員間で情報共有を行っている。		
(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回カンファレンスを行い本人の意向を確認している。定期的にサービス担当者会議を行い家族の意見を伺っている。	利用者・家族等に対して丁寧なアセスメントより意向・要望等を把握し、課題点を抽出した上で、月1回のカンファレンスで変化を把握し、多職種によるサービス担当者会議を開催し、計画作成担当者により6ヶ月に1回評価・見直しが行われています。急変時等には随時見直しが行われます。	
	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録に残すだけでなく、引き継ぎノートや口頭でも、職員間で日々の気づきを共有している。	日誌、各種チェック表に記録は残しておられます。気にかかる利用者の様子や変化については見逃さないように、記録以外に申し送りノートや口頭で、職員間で共有し、評価・見直し時に活かされています。	
	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態変化に合わせて、必要なもの(介護ベット、エアーマット、リクライニング)をレンタルしたり、柔軟な対応をしている。		

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移動販売の鮮魚店や、東伯けんこうから新鮮な地産の野菜果物を買ったり個々に好きなおやつ、花などを買ったりして豊かな生活を提供している。		
(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医になっている。必要に応じて専門医の受診を行っている。定期受診だけでなく、異常がみられる時は都度受診対応している。	かかりつけ医については、本人・家族の希望する医療機関となっています。往診も月2回あります。異常には、都度受診されています。コロナ禍前は家族と病院で待ち合わせも行われていましたが、現在はGHで全て行われています。歯科の訪問診療もあり、入れ歯の調整も行われています。	
	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本人・家族の希望のかかりつけ医に受診している。異常時には受診、往診の対応をしている。受診結果を希望している家族には報告している。状態に合わせ家族に相談の下訪問診療への変更も行っている。		
	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の入居者の状況把握に努め、家族と連絡をとりながら安心して治療できるように職員が病院と連携を図るようにしている。	入退院の際には、医療機関とカンファレンス会議を開催し、利用者が安心して入退院出来るよう病院との連携が図られています。	
(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の対応に係る指針・ターミナルケアについて家族に話し、同意を得ている。また状態変化に伴いその都度ご家族の意向を伺っている。	利用開始時に重度化や終末期についての指針を利用者・家族に説明し同意を得ておられます。重度化、終末期には家族、医療機関、職員で話し合い、意向を確認し、再度同意を得て看取りが行われています。看取り研修も行われており、看取りの後のメンタルケアも行われています。	
	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故発生マニュアルが有り応急手当、連絡関係等はマニュアルに沿って行動している。		
(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年4回日中、夜間想定避難訓練を実施。1回は地震発生時の訓練を想定している。煙体験や消火器訓練も行っている。9月には、地域との連携した訓練を行った。	年4回日中、夜間想定で避難・防災訓練が行われており、内1回は消防署立会いのもと行われています。地震想定や消火訓練も行われて、地域と連携した訓練も行われています。備蓄もGH内で行なわれています。現在、BCPIについては防災委員会で検討・作成中です。	自然災害、新型コロナウイルス感染症に対するBCP(事業継続計画)については、義務付けとなりましたので、早期作成に期待します。

外部 部	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護について勉強会を行い、振り返りや意見交換を行っている。	一人ひとりの尊重を行なう為、定期的に接遇研修も行い、声掛けの統一化に取り組まれています。個人情報取扱いにも注意が払われています。各種マニュアルに基づき、排泄・入浴時には特にプライバシーに気をつけておられます。同性介助を希望される方には対応しておられます。	
	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事やお茶タイムのメニュー、入浴時の衣類など、本人に選んでもらっている。自己決定が難しい方には、表情や言動から汲み取ったり、チラシや本から選択して頂いている。		
	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせ、その時々希望を聞き入れてケアしている。本人の表情等から食事時間を変更したり、好みのメニューに替えたり、ドライブに出かけたりしている。		
	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回、移動理美容車が来て、カットやパーマ、毛染めを希望で行っている。希望者には、職員がマニキュアを塗りおしゃれを楽しめる方もおられる。		
(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に1回、出前を取ったりパンバイキングなどで食べる楽しみを作っている。お菓子作り(ホットケーキ等)も行っている。後片付けや飲み物の準備等出来る事を一緒に行っている。	食事は3食全てホームで調理されており、より家庭的な雰囲気の中で楽しみながら食事となっています。食事の準備や片付けもできる事は職員と一緒に頂いておられます。誕生日メニュー、行事食も取り入れられています。外食も行われていましたが、コロナ対策の為、中断されていますが、出前、テイクアウト等の工夫が行なわれています。手作りおやつ作りも実施され、先日は干し柿作りをされました。	
	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々、タブレット入力している。食事摂取量が少ない方には個別記録を記入し、かかりつけ医に相談している。ほしくない時は、無理強いせず時間を置いて違う物や好みの物を提供し工夫している。		
	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施している。毎晩入れ歯洗浄剤で消毒している。個々に合った物を使用し、口腔内を清潔に保つように取り組んでいる。	自歯の方、入れ歯の方も自分での口腔ケアは難しい方が増えており、職員が一人ひとりに対応した口腔ケアを行ない口腔内を清潔に保つことが出来るよう支援されています。嚥下にも気を付けておられます。	

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握しながらトイレで排泄できるよう支援している。オシメ使用の方でもポータブルやトイレで排泄できるよう取り組んでいる。介助者にも負担のない支援ができるようPTのアドバイスを受けている。	排泄チェック表により、一人ひとりの排泄パターンを把握し、必要な声掛けや、介助が行なわれています。重度化してもトイレにでの排泄が継続出来るよう支援されています。介助者の負担軽減の為、理学療法士からのアドバイスも受けておられます。	
	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便できるよう、玉ねぎヨーグルトを提供したり朝一番に冷たい牛乳を提供している。個別で温電法も実施している。棒体操やゴム体操を行い腸の運動も行っている。		
(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その時の気分や、タイミングをみながら、気持ちよく入浴できるよう支援している。安楽に入浴できる様、特浴やミストを整備している。安全に入浴できるようPTに指導を受けている。	週2回入浴して頂けるようされています。利用者の希望や気分に合わせて個浴でゆったり入浴して頂けるよう心掛けておられます。浴槽をまたぐことが出来なくなった方については特浴を利用されています。拒否傾向のある方もありますが、タイミングをずらす等して、週に1回は入って頂かれます。	
	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	マイペースで過ごせるよう心掛けている。自室で眠れない時にはホールベットのソファで休んでもらったりTVを見たりできるようにしている。		
	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個々のケース記録に綴り、効能、副作用について理解できるようにしている。処方箋についても引継ぎノートに記入し服用時からの経過を引き継ぎ、異常がないか連携して観察している。服薬時には2人の目で確認を行い誤薬の無いよう取り組んでいる。	ケース記録の処方箋を綴り、使用薬の内容を職員で共通理解しておられます。誤薬や飲み残しの無いようにチェックしておられます。服薬後の体調変化も気を付けておられます。	
	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作り、食器洗い、食器拭き、洗濯、たみ、洗濯干し、モップ掃除等の日課やちぎり絵、編み物、パズル、塗り絵など楽しみながら取り組んでいる。月に2～3回は出前や寿司、バイキング等を行い楽しんで頂いている。		
(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望を聴きながら、ドライブやホーム周辺の外気浴を行っている。盆や彼岸には墓参りを行っている。	現在はコロナ禍の為、頻繁に出掛ける事はまだ難しい状況ですが、出来るだけ希望に添えるようされ、気分転換にドライブには出かけています。気候の良い時にホーム周辺の散歩やベランダでの外気浴も行われています。海も近いので歩いて好きな釣りに出かけられる方もあります。	

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金の管理は職員が行っている。コロナウイルスの関係で買い物や支払い等は出来ていない。		
	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話を掛けたい時、プライバシーに配慮し子機を使用し自室でゆっくり話が出来よう配慮している。ZOOM(ウェブ)を使用し顔を見ながら話が出来るようにしている。		
(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に過ごせるよう毎日3回温度・湿度チェックを行っている。コロナ禍に於いて利用者同士間隔を取りながらも、交流が図れるよう職員が間を取り持っている。	温度・湿度の管理、換気にも気を付け、また、季節を感じられる掲示物を職員と一緒に作り飾られています。食事を作る音や香りが感じられ、自宅に近い感覚が感じられます。コロナ禍に於いては、利用者間の距離を十分に保ちながら心地良く過ごせるように職員は心掛けておられます。	
	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやたたみを設置し思い思いに過ごせる空間を作っている。		
(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家から持参されたタンスを使用されたり居室でTVを見たり音楽・ラジオを聴かれたりされている。家族の写真を部屋に飾ったりアルバムを持って来て頂き部屋で見れるようにしている。仏壇を拝まれている方もある。	自宅のような雰囲気となるよう在宅時に使用されていたタンス等、馴染みの物を持ち込んで頂いています。家族の写真を飾ったり、仏壇を持ち込まれる等工夫されています。身体の状況により部屋のレイアウトの検討も行われています。	
	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	理学療法士に相談しながら個々に合った福祉用具、自室環境整備、リハビリメニュー等アドバイスを受けている。部屋が分かるように造花を飾ったり、トイレが分からない方に矢印を貼るなど工夫している。		